

令和元年度 長寿の里・南濃 事業報告

【令和元年度重点目標】

- ・ 安定的に事業運営を継続させる取組み
- ・ 地域との共生を目的に、地域貢献への積極的取組み
- ・ 職員の確保と人材育成に対する取組み
- ・ 各部署との連携・協力をもとに総合的な効率化と全体のレベルアップを目指す

【各部門事業報告】

〈特別養護老人ホーム〉

1. 地域との連携体制強化

地域福祉の担い手として、地域の学校への訪問（介護教室）や社会貢献活動の実施、又地域行事（桜祭り：下多度地区）に参加することができた。清掃活動などを通して、地域住民との交流を図ることにより、開放的で透明性の高い施設運営を行うことができた。夏祭り際には、ボランティアや地域の小中学校との関わりを深めることができた。

2. ユニットケアの推進

2名の職員にユニットリーダー研修に参加をさせ、自主的かつ創造的に活動が行える組織体制を構築し、独立性のあるユニット運営を行えた。ユニット毎に異なる飾りつけや行事を行い、季節を感じて頂くと共に、職員も含め、やりがいや生きがいの持てる環境を作ることができた。

3. 専門職の連携を活かした職場作り

専門職としてのスキルを高めるために、サテライト施設との横断的な内部研修の実施、外部研修へ積極的に参加させることで、職員の介護技術の向上を図り、介護サービスの底上げを行うことができた。（介護福祉士資格取得者：1名、実務者研修受講修了者：1名）

医療依存度の高い方の入所が多くなる中、支援技術や看取り介護への意識が高まり、入居者本人、及びご家族が希望される限り、最期まで生活が継続できるような環境及び支援体制の確立をすることができた。（施設での看取り実績：10件）

4. 安定的経営基盤の確保

特養の平均入居稼働率は、96.1%であった。重度化が進む中、入院者の増加が顕著であり、それに伴い稼働率の減少がみられた。地域の医療体制を把握しながら、有事にはスムーズな対応ができるよう、医療機関との関係性を築くことが課題である。ご家族のニーズが変化している中、看取り介護の積極的な提案も今後は適宜行える体制作りをしていくことも必要である。

〈ショートステイ〉

1. 介護サービスの提供

関係する在宅サービス事業所と連携を図り、ご利用者の心身状況に応じた適切なサービスの提供を行うことができた。特養ユニットケアの推進と並行して、ショートステイでも日々のレクリエーションの充実や、交流の場を設け、ご利用者の満足度を高めることができた。

2. ご家族や事業所との連携強化

日々変化するご利用者の心身の状況や、ご家族の要望等に対応できるよう情報収集に努め、早期に情報発信をすることができた。医療依存度が高いご利用者も積極的に受け入れを行うことで、関係事業所からの信頼獲得に繋げることができた。

3. 安定的経営基盤の確保

定期的なご利用者の受け入れや、空室情報を発信し続けることで継続的に新規ご利用者を獲得することができた。特養の急な入院等による空床ベッドへの対応も円滑に実施することができた。

4. 特養相談員との連携強化

特養の居室利用状況を把握しながら、ご利用者のニーズに対してスピード感をもって対応することができた。

〈デイサービス〉

1. ご利用者ニーズへの対応

認知症や医療的依存度の高い方などの利用希望が多い中、職員間の連携を図り積極的な受け入れを行うことができた。しかし、介護量が多くなることで、介護職員の負担が多くなり、結果として対応できず、利用中止となるケースを何件か出してしまった。今後は、ご利用者ニーズに応えられる施設体制を確立していくことが課題である。

2. 魅力ある施設への取り組み

個別機能訓練の強化を目標に掲げ、職員一人ひとりが考え自立できる体制を目指したが、専門職間での連携を図ることができず、協力し合える環境の構築ができなかった。職員間での風通しを良くし一体感をもつことで、ご利用者にとって満足度の高い環境づくりをすることが必要である。

3. 安定的経営基盤の確保

職員の離職等により運営基盤が安定していないことで、継続したご利用者の受け入れを行うことができなかった。居宅介護支援事業所との関係の再構築を図りつつ、地域から安心される事業所となることで、新規ご利用者の確保に繋げていきたい。

〈居宅介護支援〉

特定事業所として自覚を持ち、困難ケースを含む多様なケースに対して、積極的に受け入れを行うことができた。毎週行う居宅会議の場で各担当の抱える問題を持ち寄ることで、担当間での意見交換が円滑に行えた。地域の高齢者の方々のニーズに対して、関連機関と連携しながら、包括的・継続的に活動をすることができた。

〈訪問介護〉

地域の方々のニーズに合わせ、在宅において安心した生活が行えるよう、積極的にご利用者やご家族とコミュニケーションを図り、満足度の高いサービスの提供を意識的に行えた。施設での研修に参加をすることで職員のスキル・モチベーションの向上に繋げることができた。